



宗四小だより

開校40周年

新たな歴史と伝統をつくる

6月号

志木市立宗岡第四小学校

志木市上宗岡1-1-2

048-473-5250

<http://www.mune4syo.ed.jp/>

児童数 522名

令和2年5月28日発行



目指す学校像『笑顔・感動いっぱい 虹色に輝く みんなの学校』



「子どもの力を信じ その力を顕在化させる」 校長 高柳 政行



こんな話があります。【ある保育園のプールの水が凍って年長児の子ども達は、その氷で遊んでとても楽しかった。そこで、いつも氷で遊べるようにしたいと、みんなで調べることになった。帰る時、好きな容器を選んで水を入れて好きなところに置いて帰り、次の朝どこの水が凍るか確かめようということになった。朝来て比べてみると同じ青いバケツなのに「私には氷ができて〇〇ちゃんにはできない」とか「〇〇くんの氷は厚いの僕のは薄いのかできない。どうしてなんだろう」など次々疑問が湧く。そのうちに今日は同じ場所に置いてみようとか、同じ容器を毎日少しずつ違う場所に置いてみるとか、様々な試みが出てくる。その活動は10日間近くも続いた。その結果、子ども達は自分達なりに納得できる理由を見つけようとして「容器を部屋の中に置いておいたから外のように寒くないので凍らなかったんだ」「容器に蓋がしてあったから凍らなかったんだ」「水が凍るかどうかは温度と関係があるらしい」「風が吹いているかどうかとは関係がない」「砂場に埋めておくと凍らない」など、どうしたら氷ができるかその条件を特定し、自分なりに納得のいく言葉で表現できるようになった。（「私の生活保育論」本吉圓子著 フレール館より）】

私は、この話には、今求められている学びの本質が隠されていると考えます。それは、世界基準のコンピテンシーベースの学びであり、まさに新しい学習指導要領が示した育成すべき3つの資質・能力そのものです。（以下解説します。①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」・・・子どもなりにこれまで培ってきた既存の知識・技能を関連付けたり組み合わせたりしていくなかで、新たな知識・技能を獲得することや定着を図っていくことなど。②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」・・・問題を発見し、その問題の解決の方向性を示し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくこと。その際、情報を他者と共有しながら、対話や議論を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして、協力しながら問題を解決していくことなど。③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関すること。互いのよさを生かして協働する力や互いに尊重する態度やチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関することなど。）

この保育実践では、日頃から子どもと教育者の相互信頼関係や子ども同士のよりよい関係性があることも十分想像することができます。学校であればよりよい人間関係のもと学級経営がなされているということです。いかがでしょう。1979年のある保育園での報告ですが、私たち教育現場にいる者だけでなく多くの大人や社会全体が学ぶべきことだと気付くのではないのでしょうか。



今、完全に新型コロナウイルスを排除することができるわけではありませんが、できうる最大の感染防止策をとりながら学校が再開していきます。その中で、学びを進めていくこととなります。学校では、この変化の激しい社会の中で、子ども達が自分の人生を幸せに過ごしていけるようになることや、よりよい社会を築いていくことにつながる3つの資質・能力を育成していきます。



はじめにこの3つの資質・能力があり、その力を育成するために、国語、算数、社会、理科、音楽、図工、体育、家庭科、道徳、特別活動、生活、総合的な学習の時間などの教科・領域等があります。学校では、これらの教科・領域を相互に関連づけ、教科横断的な学習を進めていき、学びの質を高めていきます。その研究や研修を深め、量的な遅れをカバーし、学力を向上させていきます。教師による個別的な支援や配慮はもちろん、3密に配慮しながら全学級で全員挙手、相互指名による深い学びのある授業も行っていきます。また、わからない児童が「教えて」と言えることや、わかっている児童が助けを求めた児童にわかりやすく教えることで、さらに理解力を高めていけるような授業も可能な範囲で工夫しながら行っていきます。ですから、保護者の皆様、焦らず鳥の目を持ち空高くから子供たちを見つめてください。子どもたちの力を信じましょう。最後にもう一度、ある保育実践をお読みください。子どもはすでに多くの力を持っています。 いうならば、その力を信じ、見出し、顕在化させていくことが最も大切なことだと気づくはずです。子ども達のため共に手を携えていきましょう。保護者の皆様、地域の皆様、是非、よろしくお願ひいたします。